

専 門 教 養
令 和 6 年 7 月
60分

受 験 教 科 等
高 等 学 校 商 業

注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 他の受験者の迷惑になるような行為、スマートフォン、スマートウォッチ等の電子機器の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、14ページです。はじめにページ数を確認してください。
- 7 解答用紙に、**必要事項が正しく記入・マークされていない場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号を記入し、受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名を記入**してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは不要です。
- 8 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年、平成30年又は平成31年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 10 問題の内容についての質問には一切応じません。

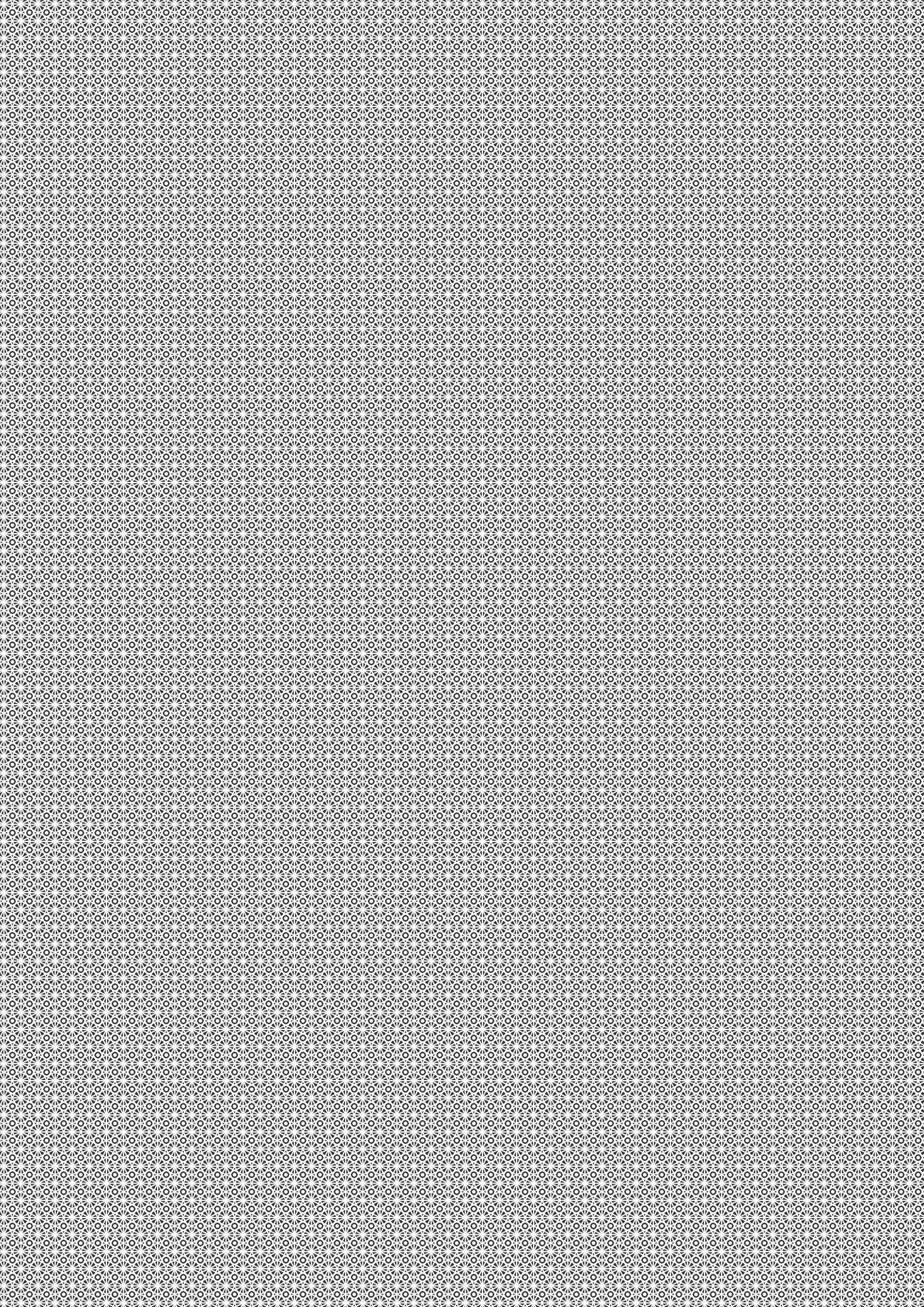
解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。各問に対して、正答は一つだけです。**各解答欄に二つ以上マークした場合は誤り**とします。
- 2 「解答番号は 1。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例1）のように解答番号 1 の解答欄の③にマークしてください。

（例1）

解答 番号	解答欄
1	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。



1 次の各問に答えよ。

〔問 1〕 高等学校学習指導要領商業の「各科目」の「簿記」の「目標」に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は **1**。

- 1 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
- 2 適切な経営管理を行う力の向上を目指して自ら学び、経営管理に有用な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
- 3 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
- 4 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

〔問 2〕 オムニチャネルに関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は **2**。

- 1 需要の状況などに応じて、臨機応変に価格を変更する方法のことである。
- 2 いつ、どの商品が売れたのかといった販売情報を管理するシステムのことである。
- 3 小売業がすべての販売経路を統合して、消費者がいつでもどこでも商品を買えるようにする仕組みのことである。
- 4 卸売業を通さず、生産者と小売業が直接取引することである。

〔問 3〕 ポジショニング・マップに関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は **3**。

- 1 さまざまな事実や実例などの個別的なデータから仮説を立て、結論を導く方法のことである。
- 2 目の前にある事象や情報について、まずはそれが本当に正しいかという疑問を持ち、じっくり考察した上で結論を出すことである。
- 3 大原則や法則などを前提として個別的な結論を導く方法のことである。
- 4 市場を分析し、競合他社に対して差別化ができるように、自社の事業やサービスを位置づけるために活用するフレームワークのことである。

〔問 4〕 マーケティング・コンセプトに関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 4。

- 1 生産志向とは、「よいものをつくれば売れる」という考え方で、企業が高品質な製品を生産し、顧客は品質や機能を比較・検討して選ぶことになる。
- 2 製品志向とは、「どうすれば売れるか」という考え方で、製品が売れ残らないようにするため、販売活動やプロモーションに力を入れる企業が増加する。
- 3 販売志向とは、「つくれば売れる」という考え方で、大量生産できる企業が優位に立ち、大量生産すればするほどコストは低下し、価格競争になりやすい。
- 4 顧客志向とは、「顧客のニーズをできるだけ読み取って製品をつくりだそう」という考え方である。

〔問 5〕 次の資料は、直接原価計算をおこない利益計画をたてているA製作所の当月に関するものである。この資料から読み取れる損益分岐点における販売数量〔個〕として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は 5。

資 料

- ア 販売単価 ￥200 販売数量 1,000個
イ 製品1個あたりの変動費 ￥60
ウ 固定費 ￥84,000

- 1 300
- 2 420
- 3 600
- 4 1,400

[問 6] 知的財産権のうち、意匠権に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 発明を独占排他的に実施することができる権利のことである。
- 2 登録された意匠及びこれに類似する意匠の実施を独占排他的にすることができる権利のことである。
- 3 著作物を直接支配して、独占排他的に利用できる権利のことである。
- 4 自分の商品・役務と他人のそれを区別するために、特定のマークを独占的に使用し、第三者の無断使用を排除できるという権利のことである。

[問 7] ビジネスモデルに関する記述として適切なものは、次の1～4のうちどれか。解答番号は 。

- 1 広告モデルとは、基本的な商品・サービスを無料で提供し、付属品や追加的な機能については有料で提供することで収益を生み出すビジネスモデルである。
- 2 消耗品モデルとは、製品の本体を販売したあとに、付随の消耗品を販売することで収益を生み出すビジネスモデルである。
- 3 フリーミアムモデルとは、広告を掲載、放送するための媒体を提供し、広告の発注者から広告料を得ることで収益を生み出すビジネスモデルである。
- 4 ライセンスモデルとは、顧客への継続的な課金を通じて収益を生み出すビジネスモデルであり、サブスクリプションとも呼ばれる。

〔問 8〕 次の記述は、会社法に規定されている、ある会社に関するものである。この会社として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は 8。

無限責任社員のほかに有限責任社員を加えて設立される会社である。経営には全社員があたるのが原則である。

- 1 合資会社
- 2 合同会社
- 3 株式会社
- 4 合名会社

〔問 9〕 取引とその仕訳に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 9。

- 1 A商店から商品の売上代金として裏書譲渡されたB商店振り出しの約束手形 ¥200,000が不渡りとなったので、A商店に償還請求をした。なお、償還請求に要した諸費用 ¥3,000は現金で支払った。

借方	不 渡 手 形	¥200,000	貸方	受 取 手 形	¥200,000
	雑	費 ¥ 3,000		現	金 ¥ 3,000

- 2 C支店は、本店の指示により、D支店に現金 ¥180,000を送付し、D支店はこれを受け取った。本店の行う仕訳は次のとおりである。なお、本店集中計算制度を採用している。

借方	D 支 店	¥180,000	貸方	C 支 店	¥180,000
----	-------	----------	----	-------	----------

- 3 E商店は、令和2年4月1日に購入した備品（取得原価 ¥1,000,000）について、定率法（償却率20%）により減価償却を行っている（決算は年1回）。決算日令和5年3月31日における決算整理仕訳（間接法）を次のとおり行った。

借方	減 価 償 却 費	¥160,000	貸方	備品減価償却累計額	¥160,000
----	-----------	----------	----	-----------	----------

- 4 F商事株式会社の当期決算において、当期純損失 ¥280,000を計上した。

借方	損	益	¥280,000	貸方	繰越利益剰余金	¥280,000
----	---	---	----------	----	---------	----------

[問10] 次の記述は、ある資産に関するものである。この資産の分類として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は 10。

長期にわたって使用されるが具体的なかたちのない資産である。科目には、のれんがある。

- 1 当座資産
- 2 棚卸資産
- 3 有形固定資産
- 4 無形固定資産

[問11] 次の資料は、G商事株式会社の決算整理事項の一部と損益計算書の一部である。損益計算書（一部）中の空欄 **ア** に当てはまる金額〔円〕として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。なお、作問の都合上、空欄としている部分がある。解答番号は **11**。

資 料

決算整理事項（一部）

期末商品棚卸高	帳簿棚卸数量 800個	原 価 @ ¥230
	実地棚卸数量 760個	正味売却価額 @ ¥220

棚卸減耗損および商品評価損は、ともに売上原価の内訳科目とする。

損 益 計 算 書（一部）			
G商事株式会社		令和○年1月1日から令和○年12月31日まで	（単位：円）
I 売上高			3,400,000
II 売上原価			
1. 期首商品棚卸高	210,000		
2. 当期商品仕入高	<u>1,900,000</u>		
合 計	2,110,000		
3. 期末商品棚卸高	<u>()</u>		
差 引	()		
4. 棚卸減耗損	()		
5. 商品評価損	<u>()</u>	<u>()</u>	
売上総利益		(ア)	

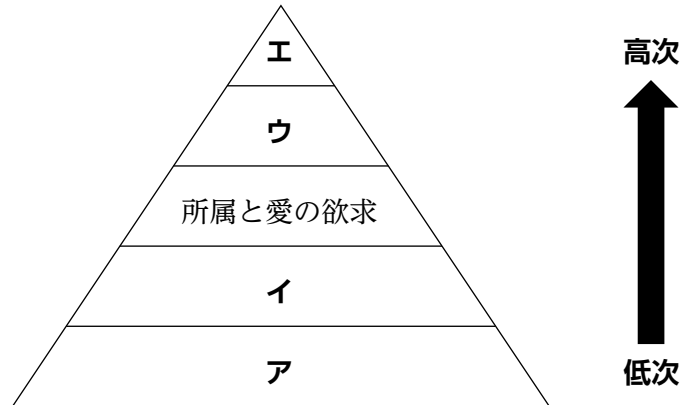
- 1 1,440,400
- 2 1,456,800
- 3 1,457,200
- 4 1,490,800

〔問12〕 次の図は、マズローの欲求階層説の欲求の階層を模式的に表したものであり、図中の
ア～**エ**には、生理的欲求、安全の欲求、承認欲求、自己実現の欲求のいずれかが当ては
まる。**エ**に当てはまるものとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は

12

。

図



- 1 生理的欲求
- 2 安全の欲求
- 3 承認欲求
- 4 自己実現の欲求

[問13] 次の資料は、標準原価計算を採用しているK製作所のL製品の標準原価カードと、当月の生産データをまとめたものである。このとき、月末仕掛品の標準原価として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。解答番号は 13。

資 料

(1) 標準原価カード

L 製品		標準原価カード	
	標準単価	標準消費数量	金額
直接材料費	¥70	5 kg	¥350
	標準賃率	標準直接作業時間	
直接労務費	¥1,200	2 時間	¥2,400
	標準配賦率	標準直接作業時間	
製造間接費	¥1,500	2 時間	¥3,000
製品1個あたりの標準原価			<u>¥5,750</u>

(2) 当月の生産データ

月初仕掛品数量	300個（加工進捗度40%）
当 月 投 入	<u>700個</u>
合 計	1,000個
月末仕掛品数量	<u>400個（加工進捗度50%）</u>
完 成 品 数 量	<u><u>600個</u></u>

- 1 ¥ 568,000
- 2 ¥ 852,000
- 3 ¥1,220,000
- 4 ¥1,830,000

[問14] 次の資料は、M製作所における製品Xの製造原価データに関するものである。M製作所は、製品Xを製造し、1個あたり¥600で販売している。大手量販店のC社から、製品Xを1,000個注文したいと申し出てきた。M製作所の生産能力は十分あり、C社の注文を受けても他の製品の製造に影響はないが、C社は1個あたり¥480と通常よりも2割安い価格での取引を求めている。C社の追加注文を引き受けた場合の差額利益として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、M製作所では直接労務費はすべて変動費としてあつかうこととし、この注文を受けても追加的な固定費は発生しない。解答番号は 14。

資 料

製品Xの製造原価データ

直接材料費	¥350,000
直接労務費	¥250,000
変動製造間接費	¥200,000
固定製造間接費	¥350,000
月次生産数量	2,500個

- 1 ¥ 20,000
- 2 ¥120,000
- 3 ¥160,000
- 4 ¥240,000

[問15] 次の資料は、等級別総合原価計算を採用しているN製作所に関するものである。このときのA級製品の製品単価として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は

15

 。

資 料

1. 月初仕掛品原価：¥ 400,000
2. 当月製造費用： ¥2,310,000
 材料費： ¥1,110,000
 労務費： ¥ 950,000
 経 費： ¥ 250,000
3. 月末仕掛品原価：¥ 190,000
4. 完成品数量と製品1個あたりの重量
 なお、等価係数は各製品1個あたりの重量を基準とし、
 B級製品の等価係数を1とする。

等級別製品	1個あたりの重量	完成品数量
A級製品	600 g	1,000個
B級製品	200 g	1,200個

- 1 ¥ 600
- 2 ¥1,650
- 3 ¥1,800
- 4 ¥1,890

[問16] 次の表は、表計算ソフトウェアで作成された、昨年の売上高と、今年の売上高、売上高累計、その月を含めて過去12か月の売上高を合計した移動合計をまとめた販売集計表である。このとき、E 5に入力された式として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、E 5の式をE 6からE 16までコピーするものとする。解答番号は 16。

表

	A	B	C	D	E
1					
2	販売集計表				
3		昨年	今年		
4	月	売上高	売上高	売上高累計	移動合計
5	1月	18,574	21,718	21,718	202,855
6	2月	16,082	16,843	38,561	203,616
7	3月	15,210	16,825	55,386	205,231
8	4月	16,186	17,585	72,971	206,630
9	5月	11,220	11,452	84,423	206,862
10	6月	15,899	17,245	101,668	208,208
11	7月	16,143	16,449	118,117	208,514
12	8月	16,282	16,817	134,934	209,049
13	9月	26,533	29,044	163,978	211,560
14	10月	11,142	11,867	175,845	212,285
15	11月	11,967	12,169	188,014	212,487
16	12月	24,473	26,200	214,214	214,214

- 1 =SUM(\$B\$5:\$B\$16)-SUM(B5:B5)+SUM(C5:C5)
- 2 =SUM(B5:B16)-SUM(\$B\$5:B5)+SUM(C5:C5)
- 3 =SUM(B5:B16)-SUM(\$B\$5:B5)+SUM(\$C\$5:C5)
- 4 =SUM(\$B\$5:\$B\$16)-SUM(\$B\$5:B5)+SUM(\$C\$5:C5)

[問17] 次の編集画面は、生徒が授業で作成した、あるマクロ言語によるプログラムを示したものであり、下の出力結果はプログラムにより出力された文字列である。編集画面中の空欄 に当てはまるものとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、編集画面の一番左に表示してある数字は行番号である。解答番号は 。

編集画面

1	Sub code01()
2	Dim i As Integer
3	Dim j As Integer
4	Dim save As Integer
5	Dim pointT(5) As Integer
6	Dim str As String
7	
8	pointT(1) = 100
9	pointT(2) = 70
10	pointT(3) = 60
11	pointT(4) = 80
12	pointT(5) = 90
13	
14	For i = 4 To 1 Step -1
15	For j = 1 To i
16	If ア Then
17	save = pointT(j)
18	pointT(j) = pointT(j + 1)
19	pointT(j + 1) = save
20	End If
21	Next j
22	Next i
23	
24	For i = 1 To 4
25	str = str & pointT(i) & ", "
26	Next i
27	
28	str = str & pointT(5)
29	
30	Debug.Print (str)
31	
32	End Sub
33	

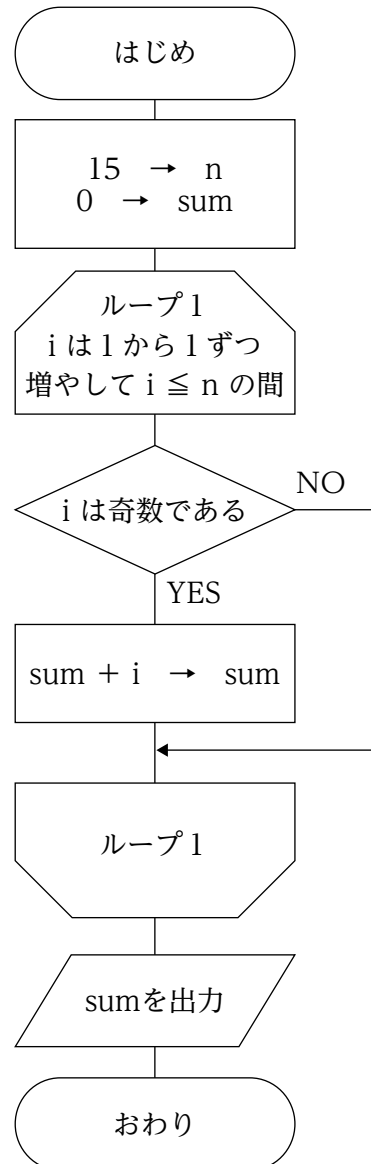
出力結果

60,70,80,90,100

- 1 pointT(i) < pointT(i + 1)
- 2 pointT(j) < pointT(j + 1)
- 3 pointT(i) > pointT(i + 1)
- 4 pointT(j) > pointT(j + 1)

[問18] 次の流れ図において出力されるsumの値として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は 18 。

流れ図



- 1 56
- 2 64
- 3 72
- 4 81

[問19] 次のア～ウは、情報セキュリティの要素に関する用語であり、下のA～Cは、情報セキュリティの要素に関する記述である。ア～ウと、A～Cとの組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は 19。

ア 機密性

イ 完全性

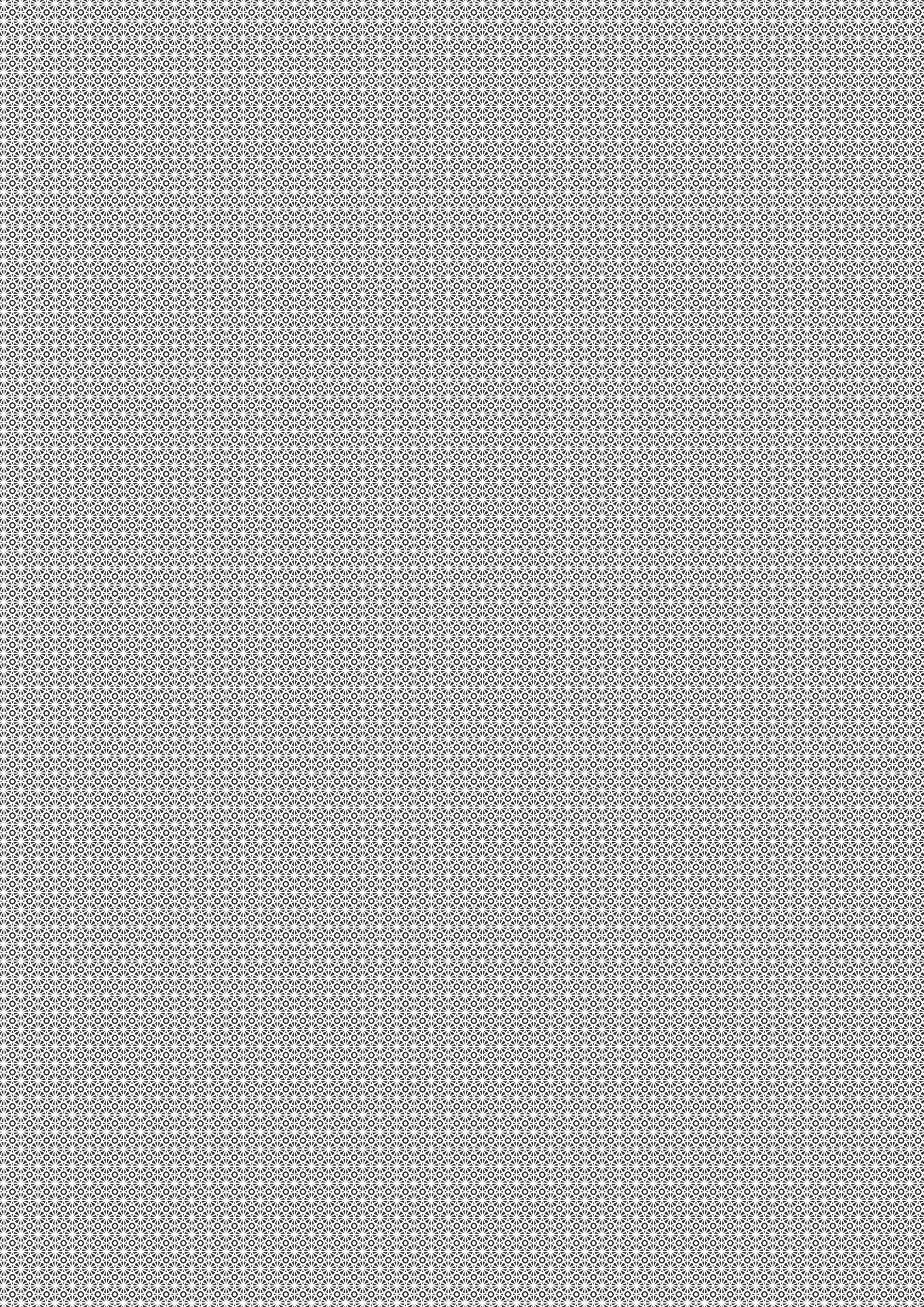
ウ 可用性

A 必要時に情報にアクセスできることである。

B 情報へのアクセスを認められた人だけが、その情報にアクセスできる状態を確保することである。

C 情報が破壊や改竄をされていない状態のことである。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| 1 | ア－A | イ－B | ウ－C |
| 2 | ア－A | イ－C | ウ－B |
| 3 | ア－B | イ－A | ウ－C |
| 4 | ア－B | イ－C | ウ－A |



3 問題文中の $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ などの $\boxed{}$ には、数字又は符号（－）が入ります。次の(1)～(4)の方法でマークしてください。

(1) $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……の一つ一つは、それぞれ1～9、0の数字又は符号（－）のいずれか一つに対応します。それらを $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、 $\boxed{234}$ に -84 と解答する場合には、次の（例2）のようにマークします。

(例2)

解答 番号	解答欄
$\boxed{2}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
$\boxed{3}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{4}$	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

なお、同一の問題文中に $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、 $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ のように細字で表記します。

(2) 分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、 $\frac{\boxed{56}}{\boxed{7}}$ に $-\frac{4}{5}$ と解答する場合には、 $\frac{-4}{5}$ として、次の（例3）のように

マークします。

(例3)

解答 番号	解答欄
$\boxed{5}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
$\boxed{6}$	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{7}$	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

(3) 小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⑩にマークしてください。

例えば、 $\boxed{8.910}$ に 2.6 と解答する場合には、 2.60 として答えてください。

(4) 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。